

藤沢市社会教育委員会議
令和2年度1月定例会

議 事 録

日 時 2021年(令和3年)1月25日(月)
場 所 藤沢市役所本庁舎8階 8-2会議室
(オンライン会議ツール「Zoom」による開催)

令和2年度藤沢市社会教育委員会議1月定例会

日時：2021年（令和3年）1月25日（月）

午前10時から正午まで

開催方法：オンライン会議ツール「Zoom」による開催

1 開 会

2 議事録の確認

3 議題

・次期「生涯学習ふじさわプラン」について（公開）

4 報告

5 その他

6 閉会

(出席委員)

川野佐一郎・稲川由佳・長田祥男・窪島義浩・越美紀・瀬戸内恵・西尾愛
西村雅代・平野まり・本多清弘・三浦孝一・三宅裕子・山内千永美・山田勉

(事務局)

齋藤参事・井出主幹・田高課長補佐・渡邊主任

***** 午前10時00分 開会 *****

川野議長

ただいまから社会教育委員会議1月定例会を開催します。

本日は、緊急事態宣言が発出されたこともあり、新型コロナウイルス感染防止のため、基本はZ o o mでの参加をお願いしております。今回は急な案内でもありましたので、委員の皆さんにはお手数おかけしています。また、環境等が整わず、市の会議室で参加している方もいらっしゃいます。本日はグループワークも行いますので、円滑な進行にご協力をお願いいたします。

事務局から本日の欠席委員の確認をお願いします。

事務局

藤沢市社会教育委員会議規則第4条により、審議会の成立要件として委員の過半数以上の出席が必要とされております。委員定数15名に対して本日の出席者はZ o o mでの参加が10名、会議室にお越しにいたっている委員が4名、欠席委員1名であることから、会議は成立しますことをご報告申し上げます。

川野議長

傍聴者の確認をお願いします。

事務局

本日傍聴者はありません。

川野議長

資料の確認をお願いします。

事務局

(配付資料の確認)

川野議長

それでは事務局から、本日の議題、次期「生涯学習ふじさわプラン」についての説明をお願いします。

事務局

資料1をご覧ください。次期生涯学習ふじさわプランの策定にあたっては、社会教育委員会議から提出される提言書を受けて、事務局側で肉付けをしていくような形で策定作業を進めていくこととなりますが、資料1としてお示ししている、提言構成については、11月第2回定例会で素案を提示させていただき、社会教育委員会議で委員の皆様にご承認いただきました。社会教育委員会議からの提言の組立は、4つの構成からなります。それぞれについて、提言の提出に至る2021年6月までの間に委員の皆様と協議していきたいと考えています。

続いて資料2をご覧ください。本日は、資料1の提言組立のうち、第3章の「藤

沢市の生涯学習施策の現状と課題」について協議しますが、その前に、11月第2回定例会で協議した、第2章「生涯学習を取り巻く社会状況 国・市の動向を踏まえて」に関して、会議にて皆様からいただいたご意見を踏まえて、事務局で素案を作成させていただきましたので、それについて確認や意見交換をする場を先に設けたいと思います。

資料3をご覧ください。これは事務局で作成した、提言の第2章の素案として、生涯学習や社会教育分野の国の施策や政策的な観点を踏まえて概要をまとめさせていただきつつ、藤沢市として今後どのようなまちを目指していくのか、全体的な方向性の中のうち、教育に関わる要素をまとめたものが(1)国の動向と(2)市の動向となります。次に、(3)社会状況の変化として、5年前に策定した現行プランから、社会や暮らしなどがどのように変わってきたかについて、主に4つの視点からまとめています。この部分については、これまでのグループワークの中でいただいた視点を含めさせていただきました。

まずひとつ目は、新型コロナウイルス感染症による生活の変化とそれに伴う気付き。次に、今後マルチステージの人生が志向されていくと、学びなおしや生涯学習が目指している、「いつでも・どこでも・誰でも学べる」ということがより大切になっていくと考えられる中で、人生100年時代を見据えた生き方が意識されるようになるということ。そして、SDGs(持続可能な開発目標)の推進について、行政や民間企業等地域社会を支える主体が、SDGsの17のゴールを意識して2030年までの達成に向けて取り組むということ。持続可能な開発目標については、発展途上国も含めた視点もありますが、日本は先進国の中でも、十分に達成できていない項目もあると言われており、達成できているものについても現状維持でいいのか、という部分もありますので、教育分野、社会教育・生涯学習分野で重要になる内容を事務局で見極めて要点をまとめました。

最後が、Society 5.0社会の到来についてで、新型コロナウイルス感染症の影響で、人と人が対面で会うことが課題になっている中で、社会教育委員会もオンラインツールの活用によって、委員の皆様とコミュニケーションを図ることができているというのは、情報技術の変化、進化の恩恵ですし、一方で、そこだけに頼っていいのか、人と人のリアルなコミュニケーションの価値も忘れてはいけないのではないかという視点も、11月第2回定例会のグループワークで出ていたと思いますので、メリットやデメリットを見極めつつ、ハイブリッド型でより良い学びの環境、機会を作り出していくという意味で、可能性を秘めていることから記載しています。

提言の第2章の素案については、これまでの会議での協議内容を踏まえていますが、事務局側の視点で解釈をしているところもあるかと思しますので、今回、確認の場を設けさせていただきました。よろしく申し上げます。

川野議長

本日の協議テーマである、提言第3章の「藤沢市の生涯学習の現状と課題」については、後ほどグループワークの時間を約40分取りたいと思います。また、その後、各グループからの発表の時間を全体で約20分取りたいと思っていますので、

よろしく申し上げます。

資料3の確認については、市の動向で気になっているのが、2040年に向けた持続可能なまちづくりの転換を図ろうとしているところです。市の総合指針の視点から見ると、生涯学習の観点からまちづくりを図ろうとするのは、意図的に目指しているというようなことでいいのではないかと思います。

(3) 社会状況の変化については、新型コロナウイルスの関係で、行政で展開される生涯学習のきっかけ作りについて、少し抵抗感がある人もいるかもしれないので、行政だけが生涯学習の主体ではないということで、もう少し柔らかい表現にしてもらえるといいのではないかと思います。新しい生活様式に留意するという一方で、市民活動の形態も変わっていくということと、必須という表現になると強すぎる表現になってしまうと思いますので、配慮されなければならないとか、留意されなければならないぐらいの表現でまとめるのがいいのではないのでしょうか。行政は活動主体ではなくて、環境整備の方法論を支援していくというのが役割だと思うので、そのあたりを踏まえて表現を柔らかくしていただきたいと思います。

また、4つ目の項目として書かれている、地元をいながら地元を楽しむ「#STAY LOCAL ENJOY LOCAL」については、すごくいいことだと思います。ここに藤沢らしさが出ていると思いますけれども、地域に密着して生活を楽しむ、地元をいながら地元を楽しむというのは、直接的な表現すぎるのではないかともしました。私たちの生活に密着したところで、人生100年時代という自分とは遠いもののような感じがしますが、今後は地域中心の生活になっていくわけで、職場関係での友人づくりも地域中心の関係づくりへと今後は変わっていくだろうと思います。高齢者の数が増え、暮らす場所に身近な交流の機会を得るという意味では、地域が重要視されなければならないと思います。

時代が変わっていく中で、学習者の要求そのものも変わっていくだろうということで、高齢社会を意識した書き方を、マルチステージも含めて書き加えてもらいたいと思っています。また、社会で弱い立場にある人たちの求めに応じて、適切に支えていくという考え方を、コロナ禍をきっかけに打ち出していきたいと思っています。

また、学びを支える人材の養成・育成ということが、(3)のア・イ・ウに出てこないで、コロナ禍において、社会的弱者を支援していく人材や専門職の育成・充実が強く求められているということ、より強く表現してもらいたいと思っています。

先日、新聞記事に、藤沢市が認知症にやさしいまちづくりに取り組んでいるということで、市の主催で昨年9月に高齢者の交流拠点を運営する事業所向けに、リバイバルダンスの体験会が藤沢市で開かれたと書かれていました。生涯学習という意味での教育的価値は分かりませんが、人生100年時代における取組としては、藤沢らしさになるのではないかと思います。記事でも評価されていて、福祉部局の取組だと思いますが、生涯学習においても素晴らしい取組だと思いますので、触れることで、基本目標に藤沢らしさが出てくるのではないかと思います。

長田委員

Society 5.0社会が到来しますが、教育はものを伝えるだけでなく、大切なことは人と人とのつながりが生み出す心のケアだと思います。これからの社会を考えると、心のつながりが希薄になりやすいように思います。ハード面を整えれば整うほど、学習者たちの反応が伝わりにくくなると思います。どれだけSociety 5.0と融合できるかということではありますが、心と心のつながりは絶対に忘れてはいけないことだと思うので、うまく入れられればと思っています。

本多委員

この文章を読んでいて違和感を覚えたのは、Society 5.0社会の到来のところでは、状況説明や考え方であるのに、ほかの3つについては、可であるとか必要であると断定的に述べている点です。Society 5.0社会をどうしていくかを考えていくために必要なこととは、どういうことなのかと思いました。

川野議長

市の新たな総合指針は、市民に対して公開されていますか。

事務局

現在、素案の状態で公開されていて、資料はそれを参考にしています。

川野議長

資料3について意見が出ましたが、それらを含めて、今後修正や追記をして作り直していきたいと思います。

次に本日の協議テーマについて、事務局から説明をお願いします。

事務局

本日の協議テーマに関連する資料として、資料4について説明します。藤沢市の生涯学習の現状と課題を分析するにあたって、アンケート調査を今回は行っておりません。そのため、市民の皆さんが生涯学習についてどう思っているのか、データを抽出できてない現状にあるのですが、国や他市の生涯学習に関する調査を見るとほとんど結果に差がないということで、今回はそこに焦点を当てるのではなく、現行プランについて、社会教育委員の皆様が丁寧に行っていただいている進捗管理をベースにして分析する、というスタンスでいくことを考えております。プランの進捗管理において大事な視点としては、PDCAサイクルに基づいて、委員の皆様が事業評価をしていただいで、翌年度にアクションとして反映しているということを示していただくことが必要であると思っています。

資料4の3ページには、事業別評価総括表を載せています。これはプラン掲載事業の担当課による事業の自己評価で、3年間分のもので、最終的には令和2年度分まで組み込んで、4年分の進捗管理を提言の中にお示ししたいと思います。

そして、資料4の5ページ以降には現行プランに重点的取組として位置付けている事業を掲載しています。社会教育委員会において毎年度複数事業を抽出してご評価いただきました。委員の皆様がまとめていただいた評価から見えてくるものがあり、課題に対する改善点として概要をまとめましたので、次期プランにつなげる要素として、頭出しさせていただきました。ここに記載されているものは、事務局で作成したたたき台ですので、各委員からご意見をいただきたいと思っています。

進捗管理から見えてきた課題や改善点など、現行プランの検証から、基本理念や

基本目標などを検証しようということをテーマに、本日はグループワークを行いたいと考えています。その結果が、提言組立の第4章につながります。

また、今回のプランの改定にあたっては、根幹を大きく変えるというよりも、今の社会の実情に則してマイナーチェンジに近いようなかたちで継承していくということを、11月の第2回定例会で提案させていただいたかと思います。社会状況も非常に大きく変わっているので、変えていかななくてはいけないものがあります。

プランの構成は基本構想、基本計画の二つに大きく分かれていて、基本理念、基本目標、施策の方向・施策がすべての事業につながっていきます。基本理念のもとに地域がつながり藤沢をつくることになりませんが、どのように人と人をつなげるのか、つながり方も今後は変わってくると思います。

本日は、3つの基本目標についてグループワークを行い、いただいたご意見をもとに、次回へとつなげてまいりたいと思います。

事務局

グループワークは、40分間行い、事前にお示ししているグループ分けの皆さんで話し合いをお願いします。

終了後は、各グループで話し合われた内容を全体共有したいと思います。

***** グループ討議（40分間） *****

川野議長

それでは全体共有に移ります。各グループから、話し合われた内容の報告をお願いします。

越委員

次の生涯学習ふじさわプランには、藤沢らしさを加えたらいいのではないかという話が出ました。まず、住民の年齢層の幅が広いということが、藤沢らしさではないかという点で、現状では多世代交流のようなかたちで、高齢者と子どもがつながっていることが見受けられる、労働世代や学生世代など中間にあたる部分の層はつながっていないということが気になる、という話が出ました。

また、配慮の必要な人たち、例えば高齢者や外国籍の方々のことを、次期生涯学習ふじさわプランに組み込んだらどうだろうかという話も挙がりました。ここでは、福祉関係などと分けたりしないで、すべてまとめて行政として見ていくことが必要ではないかという話になりました。

平野委員

提言の言葉の選び方のことで話をしました。よく使われている「学び」という言葉ですが、市民に定着していない、分かりにくいのではないかということで、「学びあい」という言葉を使ったらどうかという話がありました。その意味としては、一方的に教育というものを押し付けるのではなく、学びあいという言葉を決意に取り入れられたらいいのではないかという話し合いをしました。

山田委員

心のつながりということで、どのように学びを広げて、多くの人に伝えていくかという中で、企業や大学などから著名な方を招いたりするなど、学びの発信内容を

広げていくことが目標の中に盛り込まれていくといいのではないかという意見が出ました。学ぶということを伝えていくうえで、今ある新しいツールを使うと、繋がるにしても相手に伝わらなければ参加するきっかけが生まれてこないのが、藤沢という土壌の中で、大きな力を利用していくことができているのいいのではないかと思います。それが学びのきっかけになったり、学びを深めていくところにつながるという、という話になりました。

本多委員

今回のテーマについて何を話し合ったらいいのか分からず、他のグループのように話し合いが進みませんでした。配付資料の記載内容に対する確認や質問に終始してしまいました。

事務局

今回、協議内容のテーマ設定にあたって、テーマが少し大きすぎたのではないかと反省しています。こちらから投げかけた問いに対して、どのように答えればいいのか、きちんとご提示すべきだったと感じています。

さまざまな視点をたくさんいただきましたので、受け止めて、次の定例会での議題や資料作成に役立たせたいと思います。

川野議長

私たちは藤沢市の学びに関する計画を作る使命を担っています。国、県、他市の状況については調べて勉強すればわかるのですが、実際、自分たちの足元をどう見つめていくのいいのか、苦しみを抱えていると思います。藤沢らしさでもって、大上段に振りかぶったら、すでに先行している都市や地区があるので、それが本当に藤沢らしさなのか、という高い壁に突き当たってしまうと思います。それでも、これが藤沢らしさだよ、ということで次期プランに入れていくのいいと思います。

認知症の方たちと子どもたちにスマートフォンを持たせてペアリングを行う等、高齢者と子どもたちをつなげる活動が行われています。共生という観点で、生涯学習のテーマになっていて、これも藤沢らしさではないかと思います。

もう一つ藤沢らしさとしては、地域の企業の協力や社会的貢献が生涯学習の中でテーマになっています。市民活動だけではなく、企業市民というカタチで藤沢市に貢献していただいているのではないのでしょうか。藤沢市の企業や大学などとの連携という意味で、共生の観点を打ち出したいとも思います。

また、学び合いというのは、相互教育、生涯学習の原点で、学ぶだけなら個人で学べばいい、オンラインで十分ということになります。地域の生涯学習は学び合い、教えて教え合う、学んで学び合うといった相互関係が必要なので、そうした観点で藤沢らしさを求めていってもいいのではないか、という議論もあったと思います。

心のつながりについては、これからはスマートが求められる時代になっていくと思います。インクルーシブやスマートという言葉掲げるならば、ハード面の問題としてオンラインなどの環境整備をしていかないと、市民に呼びかけても実感として湧いてこないのしょうし、今後はこうしたことを活用していくことで、生涯学習の姿も変わっていくのだろうと思いました。

発信やコミュニケーションについて、世代間でどのように継承していくのか。経験豊かな高齢者から勤労者世代へ、勤労者世代から学生世代へ、学生世代から次世代を担う子どもたちへ、こうした継承を次期計画に盛り込んで発展的に議論がなされていくように、事務局と共に準備をしていきたいと思えます。

各委員の中から報告ありますか。ないようであれば、今回の緊急事態宣言に伴い、社会教育施設の状況をお知らせください。

事務局

公民館につきましては、7日からの緊急事態宣言の発令に伴い、8日から11日については夜間の貸室を休止としました。12日以降につきましては、宣言期間中は全時間帯で貸室を休止しています。

また、一点申し上げますと、本日のZ o o mでのやりとりに際し、各グループ間の温度感、現地とオンラインとの温度感があるように感じています。検証といっても、何をポイントにするのかが分かりづらく、今後どこまで議論を詰めきれるかという感じです。緊急事態宣言が延長されると、次回の定例会も対面で開催することが難しく、今回のようなオンラインでの開催になる可能性があります。有意義な話し合いができるかという点では不安が残りますが、本日の反省を持ち帰り、次回に生かしたいと思えます。

川野委員

2月定例会の協議テーマは具体的に考えていきましょう。
次回の案内について改めてお願いします。

事務局

本日は初めて社会教育委員会議をオンラインで開催するという事で、急きょのご案内となりましたが、ご対応いただきありがとうございます。次回の予定は2月15日月曜日の時間は午前10時から正午です。開催方法については安心して参加できる環境として、引き続きオンラインでの可能性もあるので、確定し次第お知らせしますので、よろしくお願いたします。

***** 正午 閉会 *****